日本NPOセンター

SOMPO 損保ジャパン

SAVE JAPAN プロジェクト

10年の足跡
2011-2020

みんなで守ろう！日本の希少生物種と自然環境

Contents

SAVE JAPANプロジェクト10年の足跡を振り返って …… 3

SAVE JAPANプロジェクト10年の成果❶ …… 4
社会への広がりとつながりの構築

SAVE JAPANプロジェクト10年の成果❷ …… 6
保全活動に取り組んだ主な希少生物

■取り組み事例
［栃木県］特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク …… 8
［福井県］特定非営利活動法人さばえNPOサポート …… 9
［大分県］特定非営利活動法人おおいたNPOデザインセンター … 10

SAVE JAPANプロジェクトが市民社会にもたらしたもの …… 11

社会的価値の計測・可視化（SROI手法による分析） …… 12

SAVE JAPANプロジェクトと生物多様性に関する国内外の動き … 14

SAVE JAPANプロジェクトのしくみ …… 16

■資料-1　地域定着期（2016年度～2019年度） …… 17
プロジェクトに参加した
環境団体・参加者へのアンケート回答より

■資料-2　プロジェクトに参加した …… 18
運営支援団体・実施団体一覧

SAVE JAPAN
プロジェクト 2011-2020

SAVE JAPANプロジェクト10年の足跡を振り返って

損害保険ジャパン株式会社　取締役常務執行役員
CSuO（チーフ・サステナビリティ・オフィサー）
酒井 香世子

当社は、1992年にリオ・デ・ジャネイロで開催された「地球サミット」への参画を契機に国内金融機関で最も早く地球環境問題対応の専門部署を立ち上げて以来、長年にわたり環境問題の解決に向け積極的に取り組みを進めてまいりました。

複雑で解決が難しい環境問題の解決にあたり特に大切にしてきたことは、ステークホルダーの皆様との「協働」です。企業、NPO、市民などが持つ多様な強みを生かし、パートナーシップを大切にしながら、様々なプログラムを展開しています。

その一つが2011年にスタートした「SAVE JAPANプロジェクト」です。きっかけは当社の主力商品である自動車保険の約款のWeb化です。印刷費や郵送費などの削減コストを原資に、環境問題の解決に寄与することはできないかと考え、日本NPOセンター、各地のNPO支援組織、そして環境団体の皆様とともにプロジェクトを検討してまいりました。そして、全国に広がる当社の拠点ネットワークを生かしながら「いきものが住みやすい環境づくり」「環境保全活動に参加するきっかけづくり」を目的とした生物多様性保全プロジェクトを日本全国で展開することとなりました。

それからおよそ10年、本プロジェクトは約300の希少生物種の保全活動に約5万人の市民が参加する大規模な生物多様性保全活動へと発展してまいりました。事後アンケートでは、参加者のおよそ95%が地域の環境問題に関心を持つようになり、機会があれば今後も環境保全活動に参加したいと多くの方が回答するなど、具体的な行動の変容へとつながっています。加えてプロジェクトに参加いただいた環境団体の会員数や新規スタッフが増加し、基盤強化につながるなど、当初の目的を超えた副次的な社会的価値も生み出されてきています。

また、国内で初めて、社会的投資収益率（＝SROI）を用いた生物多様性保全分野における社会的価値の算出にもチャレンジしました。「SAVE JAPANプロジェクト」を通じて生みだされた社会的な価値とその価値を生みだすために要した費用を比較するSROIを算出し、事業の有効性の分析に役立てています。

さて、今年はいよいよ「ポスト愛知目標」が採択される予定であり、あらためて「生物多様性」に世の中の関心が集まっています。しかしながら、この10年で生物多様性の毀損はさらに進み、異常気象による災害の多発や新型コロナウイルスの感染拡大による影響等、母なる地球を取り巻く環境はますます厳しい状況です。当社としても、強い危機感を持ちつつ、引き続き多様なステークホルダーの皆様と協働しながら、環境問題の解決に向けて歩みを進めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、企画段階から伴走いただき「SAVE JAPANプロジェクト」をともに作り上げてきてくださった日本NPOセンターおよび各地域のNPO支援組織の皆様に、深く御礼申し上げます。

SAVE JAPANプロジェクト10年の成果❶

社会への広がりとつながりの構築

「SAVE JAPANプロジェクト」は、生物多様性の損失をとめるために、全国各地で地域住民が環境保全活動に参加するきっかけをつくる取り組みです。

全国に活動を広げ、多くの参加のきっかけづくりをめざした「全国展開期（2011年度～2015年度）」、地域内で環境保全のさらなる意識向上をめざした「地域定着期（2016年度～2019年度）」、参加者が保全活動に関心を持ち、新たに関わるための仕組みづくりをめざした「挑戦期（2020年度）」と、時代にあわせた見直しをはかりながら10年間実施してきました。

10年間の活動実績（2011-2020年）

イベント開催数
873回

保全対象の動植物種数
全国のべ **299種**
※詳細は6ページ参照

プロジェクトを実施した各地域の環境団体
のべ **357団体**

イベント参加者数
累計 **46,894人**

環境団体の運営をサポートした地域の運営支援団体（NPO支援組織）
のべ **266団体**

主な受賞歴

第8回エコプロダクツ大賞
エコサービス部門 エコプロダクツ大賞
推進協議会会長賞（優秀賞）（2011.11）

エコマークアワード2011
奨励賞（2012.2）

生物多様性アクション大賞2013
審査委員賞（2013.10）

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）
連携事業認定（2012.9）※民間事業で初の認定

平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰
審査委員会奨励賞（2016.2）

参加者・環境団体への影響

プロジェクトによるインパクト

※以下、%は「はい」と回答した比率
※2016-2019年の参加者、環境団体、運営支援団体へのアンケートより（詳細は、17ページ参照）

参加者

イベント参加により、環境問題や環境保全活動に関心を持った
95.3%

今後もまたこのようなイベントに参加したい
大人 **95.4%**
子ども **82.3%**

環境団体

プロジェクト以外の活動へも連携が広がった
48.7%

団体の新規スタッフが増加した（有給スタッフ・ボランティア）
37.1%

団体の会員が増加した
48.0%

団体イベントへの新規参加者が増えた
71.2%

損保ジャパンや代理店との連携が組織運営能力の向上に役立った
76.4%

企業

WEB約款率
2011年～2021年
59.5%▶91.9%

社会

メディア掲載2011年～2019年
新聞 **273回**
テレビ **41回**
その他メディア **32回**

SAVE JAPANプロジェクト10年の成果❷

保全活動に取り組んだ主な希少生物

［全国のべ299種］（同一エリア内で県をまたぐ重複種は、1種とカウント）

詳細はこちら

凡例：
- ■絶滅危惧ⅠA類　ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- □絶滅危惧ⅠB類　IA類ほどではないが、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

（注）各エリアの希少種の分類は、2021年11月現在の各県が発行するレッドデータブックに基づく。

中国エリア　30種

■オオサンショウウオ/両生類
■ツキノワグマ/哺乳類
■カワシンジュガイ/軟体動物
■カブトガニ/クモ類等
■ハマナス/顕花植物
■ムラサキセンブリ/顕花植物
■ユウスゲ/顕花植物
■ブッポウソウ/鳥類
■スイゲンゼニタナゴ/魚類
■ウスイロヒョウモンモドキ/昆虫類
■サクラソウ/顕花植物
他19種

関西エリア　30種

■ヨタカ/鳥類
■カワバタモロコ/魚類
■ネコギギ/魚類
■ゲンゴロウ/昆虫類
□コマドリ/鳥類
□オオタカ/鳥類
□オオサンショウウオ/両生類
□ヒメタイコウチ/昆虫類
□オケラ/顕花植物
□アユモドキ/魚類
□カスミサンショウウオ/両生類
他19種

九州・沖縄エリア　46種

■スナメリ/哺乳類
■ヤンバルクイナ/鳥類
■ベッコウトンボ/昆虫類
■シオマネキ/甲殻類
■カブトガニ/クモ類等
■カザグルマ/顕花植物
■ゴマシオホシクサ/顕花植物
□クロツラヘラサギ/鳥類
□タイワンツバメシジミ/昆虫類
□ハッチョウトンボ/昆虫類
□ヘビノボラズ/顕花植物
□ノスリ/鳥類
□アブラボテ/魚類
他33種

四国エリア　16種

■ヤナギアザミ/顕花植物
■ニッポンバラタナゴ/魚類
■モートンイトトンボ/昆虫類
■シオマネキ/甲殻類
■アサザ/顕花植物
□フジバカマ/顕花植物
他10種

信越・北陸エリア　33種

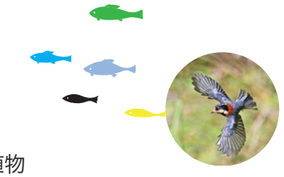
■オオタカ/鳥類
■クマタカ/鳥類
■コウノトリ/鳥類
■アベサンショウウオ/両生類
■ホクリクサンショウウオ/両生類
■イカリモンハンミョウ/昆虫類
■ウミミドリ/顕花植物
■ガガブタ/顕花植物
■ミズアオイ/顕花植物
□サシバ/鳥類
□イバラトミヨ/魚類
他22種

北海道エリア　12種

■シマフクロウ/鳥類
□チュウヒ/鳥類
□エゾホトケドジョウ/魚類
他9種

東北エリア　38種

■イヌワシ/鳥類
■クマゲラ/鳥類
■イチョウウキゴケ/コケ植物
■シナイモツゴ/魚類
■ゼニタナゴ/魚類
■ハマガニ/甲殻類
□コアジサシ/鳥類
□チュウヒ/鳥類
□タナゴ/魚類
□トチカガミ/顕花植物
他28種



中部エリア　28種

■カワバタモロコ/魚類
■マメナシ/顕花植物
■サギソウ/顕花植物
■ヒメコウホネ/顕花植物
□アカザ/魚類
□ホトケドジョウ/魚類
□ゲンゴロウ/昆虫類
□ナガボナツハゼ/顕花植物
□ヒトツバタゴ/顕花植物
他19種

関東エリア　66種

■クマタカ/鳥類
■トビハゼ/魚類
■オオキトンボ/昆虫類
■クロシジミ/昆虫類
■ゲンゴロウ/昆虫類
■ミヤマヒダリマキマイマイ/軟体動物
■カワラノギク/顕花植物
■ウスキクダチイ/地衣類
□オオワシ/鳥類
□キタミソウ/顕花植物
□チョウジソウ/顕花植物
□ビロードテンツキ/顕花植物
他54種